

# 新品種「シャインマスカット」の品質向上について

～幼木期の植物成長調整剤使用による果粒肥大効果～

河村直紀（西三河農林水産事務所農業改良普及課岡崎駐在室）

【平成24年11月13日】

## 【要約】

「シャインマスカット」幼木期の果粒肥大促進を目的として、ジベレリン処理への植物成長調整剤（以下、植調剤）ホルククロルフェニユロン液剤（以下商品名のフルメット液剤と記す）の加用を検討した。その結果、省力化を目的に行われているフルメット液剤加用によるジベレリン1回処理が、慣行栽培（ジベレリン2回処理）に加用するよりも、果粒肥大促進の効果が高かった。

## 1 はじめに

「シャインマスカット」は（独）農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所育成の品種で、食味が優れていることから全国的に導入が進んでいる。成木期の一粒重は12g程度であるが、幼木期は、果粒が小さい傾向にある。また、新品種のため植調剤の使用事例が少ない。

そこで、果粒肥大を目的に、慣行栽培（ジベレリン2回処理）へのフルメット液剤加用及び、省力化を目的に行われているジベレリン1回処理（※1参照）を行い、その効果を確認した。



ジベレリン2回処理＋フルメット液剤によるシャインマスカット3年生樹の肥大状況

## 2 調査方法

### （1）調査内容

#### ア．試験樹

「シャインマスカット」3年生 1樹

#### イ．試験区の設定

表1 試験区ごとの処理方法の違い

試験区	処理方法		処理日
	1回目	2回目	
ジベレリン2回処理＋フルメット	GA 25ppm	GA 25ppm＋F 5ppm	1回目：6月4日、2回目6月17日
ジベレリン1回処理＋フルメット	GA 25ppm＋F 10ppm	—	1回目：6月9日
慣行栽培（ジベレリン2回処理）	GA 25ppm	GA 25ppm＋F 5ppm	1回目：6月4日、2回目6月17日

表中のGAはジベレリン、Fはフルメット液剤の略

#### ウ．調査方法

収穫期（平成23年8月17日～23日）に果実肥大状況を調査した。（3房平均）

### 3 結果

- ・果粒肥大（一粒重）は、ジベレリン2回処理にフルメット液剤を加用した区では6.2g、フルメット液剤を加用したジベレリン1回処理区では7.0g、慣行栽培では5.1gであった。
- ・糖度に関しては大きな差は見られなかった。

表2 ジベレリン処理にフルメット液剤を加用した際の果粒肥大状況

処理区	房重	着粒数	一粒重	糖度	
	(g)		(g)	肩	房尻
ジベレリン2回処理+フルメット	350.0	55.0	6.2	20.4	18.9
ジベレリン1回処理+フルメット	227.0	33.0	7.0	19.8	20.0
慣行栽培(ジベレリン2回処理)	238.0	45.0	5.1	19.4	19.7

### 4 考察

ジベレリン2回処理にフルメット液剤を加用した区では、慣行栽培に比べ果粒肥大効果は確認できたが、見た目の肥大差はあまり感じられなかった。一方で、フルメット液剤を加用したジベレリン1回処理区では果粒肥大が他区に比較しても良好で、省力効果に加え果粒肥大効果も期待できることが確認できた。なお、各区の房重の違いは、摘粒程度の違いによるものである。特にジベレリン1回処理では、園主が巨峰のジベレリン1回処理と同様に、予備摘粒（※2参照）を行いすぎたため他区に比べ着粒数が少なくなった。

以上のことから「シャインマスカット」の幼木期の果粒肥大促進には、フルメット液剤を加用したジベレリン1回処理が有効だと思われる。ただし、一粒重は成木期よりも小さくなるため、予備摘粒は一粒重を想定して行うことが重要である。

※1 ジベレリン1回処理：ジベレリン処理は、種なし化のため、通常は満開時～満開3日後と満開10～15日後の2回行う（濃度はいずれも25ppm）。本技術は、ジベレリン25ppmにフルメット液剤10ppmを加用し、処理時期を満開3～5日後で行うことにより、1回で済ませる技術である。

※2 予備摘粒：1回目のジベレリン処理後早期に、支梗単位で粗く摘粒する技術であり、ジベレリン1回処理の場合は、摘粒期間が短いので行う必要がある。